



広島平和記念式典への中学生派遣事業

「広島平和記念式典中学生派遣団」として市内中学校から2年生2人ずつ、計22人を広島へ派遣しました。派遣された中学生は原子爆弾の恐ろしさを現地で感じ、戦争の悲惨さや平和の尊さについて学びました。(8月5日～7日)

広島平和記念式典中学生派遣報告会

8月29日、派遣団員が今回の派遣で学んだことや感じたことを市民の皆さんの前で発表しました。派遣団員は今後、各学校の学校祭などで発表し、戦争の悲惨さや平和の尊さを多くの方々に伝えていきます。

【派遣団員の活動報告からの抜粋】

平和記念資料館

被爆した人たちが実際に着用していた洋服や、使っていたものが展示されていました。その他にも、被爆や戦争の悲惨さ、残酷さを示す写真や資料がたくさん並んでいて、8月6日に広島に何があったのかがとても良くわかりました。服やバッグは原爆が投下される直前まで広島にいた人々が生きていた証拠でもあると思います。これらを生で見て、戦争や核兵器をなくすことなどを訴えているようにも感じました。この記憶や広島で起きたことを決して忘れずに伝えていきます。戦争がなくなり、核兵器もなく、みんなが戦争などの争いに怯えず、楽しく生活できる世界へつなげる一歩を確実に進めることが大切だと思いました。

平和記念式典

特に印象的だったのは、こども代表の、「私たちには、被爆体験を直接聞くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受けとめる使命があります。」という平和の誓いの中の言葉です。その言葉を聞き、「知る」だけでなく、「受け継ぎ」、戦争や原爆の記憶を風化させず、私たちが周りや次の世代へと伝えていくことの重要性を強く感じました。今回式典に参加して、実際に自分の目で見て、肌で感じることで、より考えが深まったと思います。また、感じたことや思いを忘れず、周りへ発信していきたいです。

元安川灯ろう流し

灯ろう流しは、亡くなった人への慰霊や平和への願いを込めて、灯ろうを川や海に流す行事です。灯ろうには、一人一人の思いや願いが込められています。実際に灯ろうが水面をゆっくり流れていく様子を見ると、過去に亡くなった方々のことを思い、平和な今が当たり前ではないのだと感じました。また、たくさんの灯ろうが一緒に流れていく姿から、多くの人が平和を願っていることも伝わってきました。私もこれから、平和について考えることを大切にし、自分にできることをしていきたいと思いました。

平和学習の集い

今回の平和学習の集いへの参加を通して、大切なことを2つ学びました。

1つ目は、核兵器の恐ろしさです。実際に勉強していたことだけではなく、被爆体験講話を聞いて、自分の言葉では表せないほどのたくさんの怒りと苦しみと痛みを、心から深く感じました。そして、核兵器は私達が知っている以上に恐ろしく怖いものであり、そのことを大勢の人に伝えていかなければならない存在なのだと改めて感じました。

2つ目は、戦争の悲惨さを学んだ上で、自分たちにできる行動をしていかなければならないということです。グループディスカッションでは、私達が日常でできる「平和を築く行動」にはどのようなことがあるかを考えました。



考えたことを元に、家族や友人、地域の人たちに伝えていき、みんなで行動していくことが平和に繋がる第一歩なのだと思います。世界で起きていることに関心を持ち、自分にできることを考え続けていくことが一番大切なのだと思います。

今回の平和学習で学んだことを周りの方々に伝えていき、自分たちが平和を創る行動を探していきたいです。

栃木市の非核平和事業

特集1

栃木市では、栃木市非核平和都市宣言の趣旨を踏まえ、戦争の悲惨さや核兵器のおそろしさを伝え、命の尊さや平和について考える機会を設けるため、今年も各種啓発事業を実施しました。

戦争体験を聞く会

戦争体験を風化させることなく、後世に伝えていくため、8月16日に「戦争体験を聞く会」を開催しました。戦争体験の語り部である阿部 洋子 さんには「栃木市での学童疎開」、昭和館次世代の語り部である豊田 梓 さんには「軍事郵便」について語っていただき、来場者約70名が熱心に耳を傾けました。

☎ 総務課 ☎ (21) 2342



寄せられた声

栃木市での学童疎開

- ・80年以上前の話を涙ながらに話す姿に胸を打たれました。何年経っても悲しみは消えないものですね。
- ・絶対に戦争は起こしてはいけぬ。自分も親として子に伝えていかなければならないと思いました。

軍事郵便

- ・軍事郵便について初めて聞かせていただきました。それぞれの家族、人々にドラマがあったことがわかりました。
- ・手紙を通じた家族の切なる思いが、痛いほど伝わってきました。
- ・幼少時、祖父からの軍事郵便や写真等を目にした記憶がよみがえりました。

とちぎ非核平和展＝ヒカリから光へ＝2026（※栃木市と賢二版画絵巻プロジェクトとの共催事業）

8月6日と8月13日～16日の期間、きららの杜とちぎ蔵の街楽習館（市民交流センター）において、とちぎ非核平和展＝ヒカリから光へ＝2026を開催しました。市ゆかりの彫刻家で版画家の鈴木賢二氏の「平和を世界に」等の展示や、栃木女子高等学校コーラス部の演奏、市内の中学生・高校生・大学生による「広島の高校生が描いた原爆の絵」に添えられた文章の朗読などを行いました。



とちぎ平和展

8月3日～14日の期間、市役所本庁舎4階において、丸木美術館所蔵の「原爆の図」の複製画や、第二次世界大戦末期に使用した飛行服等の現物資料、広島・長崎への原子爆弾投下後の惨状を収めた写真パネルなどを展示しました。また市内6図書館でも、8月1日～31日の期間に原爆写真パネルやポスターの展示、非核平和関連書籍のコーナーを設けました。

